

第4学年道徳科学習指導案

4年2組 指導者 森重孝介

主 題 よりよい縦割り班掃除をめざして C「勤労、公共の精神」

教材名 そうじのときに（出典：小学校どうとく 新生きる力 日本文教出版）

資質・能力
①活用できる知識・技能
②自ら問題を見付ける力・解決する力
③根拠をもとに筋道を立てて考える力
④自分や仲間の考えを問い直す力
⑤様々な角度から自分の考えを創り出す力
⑥自分の思いや考えを分かりやすく伝える力
⑦自分から学びに向かうとする力
⑧仲間の考えを受けとめる力
⑨困ったときに援助を求める力
⑩自分の学びを見つめ直す力
⑪人間性（感性、自己肯定感など）

1 主題について

本年度から山口小学校では、異学年で構成する縦割り班掃除が行われている。本学級の子どもたちは、高学年や低学年の子どもたちと協力しながら、一生懸命に掃除をしている。中学年として高学年を支え、低学年の手本となって掃除をしようという考えをもつ子どもは多い。しかし、実際に低学年の手本となって行動できる子どもは少ない。このような子どもたちが、縦割り班掃除で悩みをかかえる人物をとおして、今の自分を見つめ、これからの自分たちの掃除の取り組み方についての考えを深めていく。このことは、掃除だけでなく様々な学校行事などで、みんなのために働く活動について、今後の自分たちのよりよい行動を考えることにつながるであろう。

本時は、内容項目C「勤労、公共の精神」に基づき、子どもたちが、働く意義や役割を理解し、集団の一員として進んで働くことの大切さに気付く学習である。子どもたちの中には、みんなのために働くことで喜びを感じる子どもや働くことが面倒だと感じ、やりたくないという思いをもつ子どももいる。しかし、自分のよさが認められ、集団生活の向上につながっていると実感することで、進んで働こうとする意欲や態度を育てることができる。子どもが働くことや社会に奉仕することに充実感を味わうことで、進んで公共のために役立つ気持ちを養い、自分のよりよい生き方をめざすことができる。本教材「そうじのときに」は、異学年での掃除に取り組むかよ子が、家庭科室担当のリーダーを任されているところから始まる。だんだんと掃除がいい加減になり、がんばろうという意欲が減退する心情は、身近に起こる問題として捉えやすい。1年生のゆうとが一生懸命に掃除をする様子を見て恥ずかしく思うかよ子に自分を重ねながら、集団生活での自分の役割と責任、そして、これからのよりよい勤労への考え方を模索していくであろう。掃除の意義やよさを理解し、進んでみんなのために働く意欲や態度を養う。


そこで、以下のような支援を具体化する。

- 導入では掃除の様子を写真で提示し、掃除の取り組み方を問う。そうすることで、自分の掃除の取り組み方のよさと課題を意識できるようにする。
- 「掃除は面倒」などの発言が出たときには、全体に問い返したり、価値付けたりする。そうすることで、人間理解に関することを話しやすくする。
- 人間理解に関する発言がいくつか出た時点で、「掃除は一生懸命しなくてもいいのではないか」と全体に問う。そうすることで、価値についてもう一度考えることができるようにする。
- 仲間の振り返りに対して、仲間のよさを見つけた子どもを価値付ける。そうすることで、これからのよりよい掃除の取り組み方について考えることができるようにする。

2 本時案 【平成28年7月15日 13:50～14:35 4年2組教室】

- (1) ねらい 自分の縦割り班掃除とかよ子の掃除とを比べて思ったことを話し合う活動をとおして、自分の掃除の取り組み方を見つめ直し、これからの掃除の取り組み方について考えることができるようにする。

(2) 学習過程

学習活動／子どもの意識	支援
<p>① 自分の掃除の取り組み方について振り返る (5分)</p>	<p>○導入では掃除の様子を写真で提示し、掃除の取り組み方を問うことで、自分の掃除の取り組み方のよさと課題を意識できるようにする。</p>
<p>学習内容 ・今の掃除のよさと課題の理解</p>	
<p>A 縦割り班で協力して掃除をしているよ。</p>	
<p>B でも他の学年が掃除に集中していないから困ったことがあるよ。</p>	
<p>② 教材文を読み、自分の掃除の取り組み方について話し合う(25分)</p>	<p>○「掃除は面倒」などの発言が出たときには、全体に問い返したり、価値付けたりすることで、人間理解に関することを話しやすくする。</p>
<p>学習内容 ・掃除の取り組み方</p>	
<p>・自分の縦割り班掃除と比べて読むのだね。</p>	
<p>B 「やっとチャイムが鳴った」の気持ちは分かるなあ。面倒くさい掃除がやっと終わったんだね。</p>	<p>○「掃除は面倒」などの発言が出たときには、全体に問い返したり、価値付けたりすることで、人間理解に関することを話しやすくする。</p>
<p>・自分は掃除をがんばっているのだけど、低学年が遊んで掃除をしてくれないのは僕の班と同じだ。一生懸命掃除をしても誰も褒めてくれるわけじゃないからね。</p>	
<p>掃除は一生懸命しなくてもいいんじゃないかな </p>	
<p>・いや、きちんと掃除をしてきれいになると気持ちがいいよ。</p>	
<p>・ゆうとみたいに一生懸命掃除をしている1年生もいるよ。</p>	
<p>・ゆうとみたいにきちんと掃除をして、きれいになったら気持ちいいね。</p>	
<p>A かよ子はゆうとを見て、どうして恥ずかしくなったのかな。僕は1年生を見ても恥ずかしいとは思わないよ。</p>	<p>○人間理解に関する発言がいくつか出た時点で、「掃除は一生懸命しなくてもいいのではないか」と全体に問うことで、価値についても一度考えることができるようにする。</p>
<p>・ゆうとは1年生なのに一生懸命掃除に取り組んでいるけど、4年生の自分が一生懸命取り組めていなかったからだよ。</p>	
<p>・自分の弱さに気づいたからだね。一生懸命掃除をしようと思ったかよ子はすごいと思うよ。</p>	
<p>③ これからの自分の掃除の取り組み方について考える (15分)</p>	<p>○仲間の振り返りに対して、仲間のよさを見つけた子どもを価値付ける。そうすることで、これからのよりよい掃除の取り組み方について考えることができるようにする。</p>
<p>学習内容 ・掃除の取り組み方の共有と取り組みへの意欲の高まり</p>	
<p>・分かっていたけど、面倒くさくて片付けをしていなかったよ。</p>	
<p>A 僕が今まで掃除ができていなかったのは恥ずかしいと思っていたからだよ。</p>	
<p>B 面倒なときもあるけどがんばろうと思ったよ。</p>	
<p>・Bくんが言うように確かに面倒くさいときもあるよ。でも、がんばろうとするBくんっていいな。きれいになるとやっぱり気持ちがよいからね。</p>	
<p>・自分たちが高学年を意識して掃除をすることが必要だよ。よりよい縦割り班掃除をめざしてがんばろう。</p>	

3 板書計画

